

## 解 答

問一

強い木枯らしが吹く中、冷たく寒い冬の田園路を、三人の小さな子供たちが、必死に少しずつ歩き進む様子。

問二 念願かなって汽車で登校できるはずだったのに、父親のせいで汽車に乗れなくなり、落胆と父への憎しみで心が

いっぱいになっていたから。

問三 私たちだけ歩いて帰らないといけないなんて、お父さんはひどい。

問四 朝、私たちを汽車に乗せなかつたことを氣の毒に思ひ、丈夫な子は雪でも歩け、という自分の説を曲げてでも私

たちの機嫌をとりたいのだ、と意地悪く受け取つた。

問五 自分のつむじ曲りによる拒否ではなく、あくまでも父親の言葉に従つてはいけないと妹を納得させ、自分を正当化しようとする思い。

問六 もし、姉の言葉をそのままとらえて人力車に乗つたら、明日からはもう学校につれて行かない、という仕返しの

意味が含まれているから。

問七 妹に申し訳なくて謝りたいのに、そんな気持ちとは反対の冷たいことしか言えず、後悔し、自分を責める気持ち。

問八 母の温かいいたわりによつて、寒い中、遠い道のりをすつと歩いてきた疲れやつらさ、姉の冷たい言動など、ずっと我慢していたものが一気にふき出されたから。

問九 父親に抱いた怒りや仕返し、幼い妹への冷たい仕打ちなど、何も言わなくとも母親は知つており、自分でも後悔していることを母親にとがめられ、あらためて自分の言動が情けなく思われたから。

問十 私が自分の言動を後悔し、苦しんでいることを察し、もう責めずにいたわつてあげたいと思った。

問十一 自分の意地を通したためにいろいろな人を傷つけてしまひ、そんなことをした自分が情けなく、傷つけてしまつた人たちに申し訳ないから。

問十二 丈夫な子供は雪の中でも歩きなさい、他の子は乗らないのに自分たちだけが人力車に乗ることはよくない、という父親の言いつけを忠実に守つた、と解釈している。

問一	歩く様子を「コトコト」という擬態語で表している独特な表現です。「ひろびろと吹きさらす田園路」「木枯らしに吹き飛ばされるよう」などと「小さい私たち」「一吹きの風にも飛ばされてしまい小さな小さい子供」などの表現の対比から、冷たく厳しい自然の中を一生懸命に少しずつ歩く「私たちの様子を想像するとよいでしょう。
問二	傍線②までの「私たちの大きな心情の変化をついに追いましょう。ふだんから羨ましく思つて見ていた汽車に乗つて学校に行ってよいとお母さんから言つてもらえたのです。「大喜びで鞄を背負うと、庭先へとび出しました。」や「私たちが大喜びしたのも無理はありません」などに、登場人物の心情が直接描かれています。しかし、これがばつたり逢つたお父さんの言葉によつて一変してしまいます。「私はその時ほど、く黙つてあるき出しました。」「けれど、私はう手を引つぱりました。」などの表現から、お父さんへの憎しみや怒り、どれほどがつかりしたかを読みとりましょう。
問三	「——」は「ダツシユ」「中線」などとよばれます。物語文や小説の中で、言葉を省略することによって余韻を残したり印象を強くしたりする場合に用いられます。省略している言葉は、多くは直前に書かれています。ここは、「この雪の中を、またあるいて帰るのか。」「お父さんを憎らしがらないではいられません」に着目しましょう。「自分たちだけは歩かなければならぬ」というつらさやお父さんへの腹立ちが強調されているのです。
問四	傍線④の直後「お父さんはとうとう、くもつと意地わるくなつたものです。」に着目して解答を導きます。「私は、おとうさんははからいを、単純に自分たちを喜ばせようとしたものではなく、つらい思いをした自分たちのこ

機嫌を取ろうとしたものだとひねくれたとらえ方をして います。

問五 傍線⑤の「私」の言葉の真意は、「けれど、私の心のうちに、ほんとうにそういう気持があつたのでしょうか。」

以降に表れて います。本当は自分も人力車に乗りたいけれど、お父さんに対する意地から乗りたくない、妹にも乗つてほしくない、というのは「私」の単なる身勝手です。幼い与志子はこんな姉には素直に従うことはできないでしょ う。ですから、すべては父親の言いつけであり、きちんとそれを守るべきなのだと主張して自分の真意を隠したのです。

問六 「言葉の針」とは「人を傷つける言葉」という意味で用いられています。ここでは、与志子にとって、姉の言葉に素直に従つたら後で何が恐いのか、何が困るのかを考えましょ う。「いえ、明日も又学校へつれて来てもらうことさえなかつたら——」という言葉より、姉を裏切つてひとりだけ人力車に乗つたら、明日からはもう姉に学校につれて来てもらえない、たつたひとりで一里もの道を歩いて学校へ行かないといけなくなるだろ う、ということを恐れていることがわかります。

問七 「私」は与志子のいじらし い心持を察し、謝りたい気持ちでいっぱいだつたにもかかわらず、口から出てきた言葉は、心とは反対の意地悪な言葉だつた、とあります。傍線⑦のときの「私」の気持ちは、与志子に対するおわび、自分の言動に対する後悔などが考えられます。

問八 与志子が置かれて いる状況をていねいに読みとりましょ う。小さい与志子にとって、吹雪の中の一里の道のりはとても遠くつら いものだつたのです。また、お姉さんの意地つぱりさえなければ楽できたのですから、がっかりする気持ちやつらさはより大きかつたことでしょう。そんな中、家に着いただけでもほつとするとこ う、お母さんに温かく迎えられ、お姉さんのことをたしなめてくれたのですから、緊張が解け、今までずっと我慢して いたつらさや疲れがどつと出てきたのです。

問九

問五のよう に、どんなに父親の言葉をもち出して妹を納得させても、「私」の強情つぱりや妹への冷たい仕打ちは母親にはお見通しでした。「私」は自分の言動について罪悪感を抱いて います。そこを母親から指摘され、とがめられたのです。傷口に触れられるよ くなつらさがあつたと想像で きます。

問十

最初は「私」の強情をとがめていた母親ですが、言い返すことも謝ることもできずただ黙つて いる「私」を見て、「私」が自分の過ちに気づいて いること、それなのにまだ素直になれなくて苦しんでいることを見抜いたと考えられます。優しい言葉をかけて「私」の気持ちを解きほぐそうとしているのです。

問十一

「自分の意地を充分に通してしまつた」の具体的な内容を考えます。ここでは、せつかく自説を曲げてまで

「私」たちのために人力車をよこしてくれた父親の優しさを拒絶したこと、小さな妹まで吹雪の中を歩かせた上に冷たいこと言つたこと、を指して います。その結果、父親の気持ちを踏みつぶしてしまつたことへの罪悪感、妹にひどい言動をしてしまつたことへの後悔、そんなことをした自分への嫌気など、悲しい気持ちばかりが残つてしまふのです。

問十二

「ふだんお父さんがあんなに云つて いた」ことの内容を明確にします。今朝の父親の言葉から「うちの子供たち

を乗せたらば、みんな他の子供たちも乗せなければなら ない」「丈夫な子供は雪の中でも歩くのだ」の二点を指摘しましょ う。父親は、「私」がこの自分の言葉を守るために人力車に乗らずに歩いて帰つてきたと解釈したのです。

① ②

「官製」は同音異義語が多く、「管制」や「官制」などとまちがえないよう にしましょ う。

「やがい」と読まないよう に気をつけましょ う。「屋外」と同じ意味の「やがい」は「野外」と書きます。

⑯